

兵庫県ケアラー、ヤングケアラーの実態に係
る福祉機関調査報告（資料編）

目 次

兵庫県アラーの実態に係る福祉機関調査について	1
兵庫県ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査について	22
ケアラーに関する実態調査（調査票）	40
ヤングケアラーに関する実態調査（調査票）	46

兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査の報告について

〔 地域包括支援センター・介護支援専門員等、障害者（児）相談支援事業所、
民生委員・児童委員 〕

1 調査方法

(1) 地域包括支援センター

市町の地域包括支援センター担当者を通じて、管内のセンターに調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月1日～6月30日
- 記入者：本人・機関
- 回答数：267

(2) 介護支援専門員等

兵庫県介護支援専門員協会各支部において、介護支援専門員等が個別に利用者に依頼し承諾のあった方に調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月1日～5月21日
- 記入者：本人・機関
- 回答数：42

(3) 障害者（児）相談支援事業所

市町を通じて市町の委託相談支援事業所に調査票を配布し、事業所で関わりのあるケアラーに依頼し調査を実施。

- 回収状況：令和3年4月1日～5月14日
- 記入者：本人
- 回答数：92

(4) 民生委員・児童委員

市町民生委員児童委員協議会（連合会）（神戸市除く）に郵送で調査票を送付し、同協議会より民生委員・児童委員に調査票を配付し、調査を実施。

- 期 間：令和3年4月1日～10月31日
- 記入者：機関
- 回収状況：2, 103

2 ケアラーの属性について

(1) 性別・年齢

ケアラーの性別については、「男性」34.4%、「女性」64.4%であり、女性がケアを担うことが多い状況となっている。また、ケアラー年齢は、「60代」が27.9%で最も多く、次いで、「70代」が23.9%、「50代」「80代以上」がそれぞれ17.5%の順であり、60代以上がケアラー全体の約7割を占めている。(平均：66.2歳)

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「男性」22.3%、「女性」76.7%であった。ケアラー年齢は、「50代」が24.6%で最も多く、次いで、「60代」が23.3%、「70代」が21.7%の順であった。(平均：64.1歳)
- 障害相談支援事業所を通じた回答では、「男性」22.8%、「女性」75.0%であった。ケアラーの年齢は、「50代」が37.0%で最も多く、次いで、「60代」が19.6%、「40代」が19.6%の順であった。(平均：55.1歳)
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「男性」36.7%、「女性」62.4%であった。年代別では、「60代」が29.0%で最も多く、次いで、「70代」が25.1%、「80代以上」が18.4%の順であった。(平均：67.2歳)

ケアラーの年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答	計
地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=309)	1	10	9	21	76	72	67	48	5	309
	0.3%	3.2%	2.9%	6.8%	24.6%	23.3%	21.7%	15.5%	1.6%	100.0%
障害者相談支援事業所(N=92)	0	2	9	18	34	18	5	5	1	92
	0.0%	2.2%	9.8%	19.6%	37.0%	19.6%	5.4%	5.4%	1.1%	100.0%
民生委員・児童委員(N=2103)	5	17	47	157	328	609	527	386	27	2,103
	0.2%	0.8%	2.2%	7.5%	15.6%	29.0%	25.1%	18.4%	1.3%	100.0%
計	6	29	65	196	438	699	599	439	33	2,504
	0.2%	1.2%	2.6%	7.8%	17.5%	27.9%	23.9%	17.5%	1.3%	100.0%

(2) 就労等の状況

ケアラーの就労状況については、「無職」が34.6%で最も多く、次いで、「主婦(夫)」が27.1%、「正規雇用」が12.3%の順であった。このほか、「非正規雇用」10.3%、「自営業」5.2%、「家族従事者」1.0%となっており、3割近くの方が企業等で働きながらケアをしている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「主婦(夫)」が29.8%で最も多く、次いで、「無職」が25.6%、「正規雇用」が16.8%の順であった。
- 障害相談支援事業所を通じた回答では、「主婦(夫)」が34.8%で最も多く、次いで、「無職」が26.1%、「正規雇用」が12.0%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「無職」が36.3%で最も多く、次いで、「主婦(夫)」が26.3%、「正規雇用」が11.7%の順であった。

ケアラーの就労等の状況

	正規雇用	非正規雇用	自営業	家族従事者	主婦(夫)	無職	大学生等	その他	未回答	計
地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=309)	52	51	8	4	92	79	4	8	11	309
	16.8%	16.5%	2.6%	1.3%	29.8%	25.6%	1.3%	2.6%	3.6%	100.0%
障害者相談支援事業所(N=92)	11	10	4	1	32	24	0	9	1	92
	12.0%	10.9%	4.3%	1.1%	34.8%	26.1%	0.0%	9.8%	1.1%	100.0%
民生委員・児童委員(N=2,103)	246	197	118	21	554	764	2	66	135	2,103
	11.7%	9.4%	5.6%	1.0%	26.3%	36.3%	0.1%	3.1%	6.4%	100.0%
計	309	258	130	26	678	867	6	83	147	2,504
	12.3%	10.3%	5.2%	1.0%	27.1%	34.6%	0.2%	3.3%	5.9%	100.0%

3 被介護者の属性について

(1) ケアラーがケアをしている相手

ケアをしている相手については、「母」が30.9%で最も多く、次いで、「夫」が17.9%、「妻」が10.6%の順であった。なお、障害者相談支援事業所を通じた回答では、「息子」が51.3%、「娘」が15.0%となっており、子どものケアが全体の2/3を占めている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「母」が33.6%で最も多く、次いで、「夫」が20.6%、「父」が13.0%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「息子」が51.3%で最も多く、次いで「娘」が15.0%、「母」が12.4%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「母」が31.4%で最も多く、次いで、「夫」が18.1%、「妻」が11.5%の順であった。

被介護者の状況

	地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=369)		障害者相談支援事業所(N=113)		民生委員・児童委員(N=2,211)		計	
母	124	33.6%	14	12.4%	694	31.4%	832	30.9%
夫	76	20.6%	6	5.3%	400	18.1%	482	17.9%
父	48	13.0%	2	1.8%	188	8.5%	238	8.8%
義母	34	9.2%	2	1.8%	108	4.9%	144	5.3%
妻	27	7.3%	3	2.7%	255	11.5%	285	10.6%
兄弟姉妹	12	3.3%	8	7.1%	79	3.6%	99	3.7%
祖父母	11	3.0%	2	1.8%	17	0.8%	30	1.1%
義父	8	2.2%	1	0.9%	32	1.4%	41	1.5%
息子	7	1.9%	58	51.3%	209	9.5%	274	10.2%
娘	5	1.4%	17	15.0%	114	5.2%	136	5.1%
伯叔父母	4	1.1%	0	0.0%	9	0.4%	13	0.5%
義兄弟姉妹	2	0.5%	0	0.0%	10	0.5%	12	0.4%
その他	6	1.6%	0	0.0%	23	1.0%	29	1.1%
親戚	0	0.0%	0	0.0%	23	1.0%	23	0.9%
未回答	5	1.4%	0	0.0%	50	2.3%	55	2.0%
計	369	100.0%	113	100.0%	2,211	100.0%	2,693	100.0%

(2) ケアをする相手の年齢状況

ケアをしている相手の年齢については、「80歳以上」が55.2%で最も多く、次いで、「70代」が18.9%、「60代」が6.3%の順となっており、高齢となった父母、義父母、配偶者をケアしているケースが多くなっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「80歳以上」が66.7%で最も多く、次いで、「70代」が22.0%、「60代」が4.3%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「10代」が20.4%で最も多く、次いで、「20代」が18.6%、「80歳以上」が11.5%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「80歳以上」が55.5%で最も多く、次いで、「70代」が19.0%、「60代」が6.5%の順であった。

ケアをしている相手の年齢

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=369)		障害者相談支援事業 所(N=113)		民生委員・児童委員 (N=2,211)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10歳未満	0	0.0%	7	6.2%	20	0.9%	27	1.0%
10歳代	3	0.8%	23	20.4%	62	2.8%	88	3.3%
20歳代	4	1.1%	21	18.6%	53	2.4%	78	2.9%
30歳代	2	0.5%	12	10.6%	64	2.9%	78	2.9%
40歳代	4	1.1%	8	7.1%	94	4.3%	106	3.9%
50歳代	12	3.3%	10	8.8%	87	3.9%	109	4.0%
60歳代	16	4.3%	10	8.8%	143	6.5%	169	6.3%
70歳代	81	22.0%	8	7.1%	421	19.0%	510	18.9%
80歳以上	246	66.7%	13	11.5%	1227	55.5%	1,486	55.2%
未回答	1	0.3%	1	0.9%	40	1.8%	42	1.6%
計	369	100.0%	113	100.0%	2,211	100.0%	2,693	100.0%

(3) ケアをしている相手の状況

ケアをしている相手の状況について、「心身機能の低下」が48.9%で最も多く、次いで、「認知症」が25.0%、「身体障害」が22.8%、「病気」19.6%の順となっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「心身機能の低下」が53.7%で最も多く、次いで、「認知症」が39.0%、「病気」が22.8%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「知的障害」が37.2%で最も多く、次いで、「身体障害」が26.5%、「精神障害」が23.0%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「心身機能の低下」が50.6%で最も多く、次いで、「認知症」が24.0%、「身体障害」が23.7%の順であった。

ケアをしている相手の状況【複数回答】

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=369)		障害者相談支援事業 所(N=113)		民生委員・児童委員 (N=2,211)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
病気	84	22.8%	0	0.0%	444	20.1%	528	19.6%
難病	28	7.6%	12	10.6%	90	4.1%	130	4.8%
身体障害	60	16.3%	30	26.5%	524	23.7%	614	22.8%
知的障害	8	2.2%	42	37.2%	158	7.1%	208	7.7%
精神障害	30	8.1%	26	23.0%	106	4.8%	162	6.0%
高次脳機能障害	10	2.7%	4	3.5%	64	2.9%	78	2.9%
依存症	10	2.7%	0	0.0%	20	0.9%	30	1.1%
認知症	144	39.0%	0	0.0%	530	24.0%	674	25.0%
心身機能の低下	198	53.7%	0	0.0%	1119	50.6%	1,317	48.9%
発達障害	0	0.0%	25	22.1%	53	2.4%	78	2.9%
医療的ケアが必要な障害児者	0	0.0%	9	8.0%	41	1.9%	50	1.9%
その他	11	3.0%	21	18.6%	75	3.4%	107	4.0%
未回答	3	0.8%	5	4.4%	132	6.0%	140	5.2%
計	586※		132※		2,298※		3,016※	

※複数回答のため回答数が被介護者の数を上回っている。なお、割合は被介護者数を分母としている。

(4) ケアの内容

ケアラーの行っているケアの内容について、「食事、洗濯、掃除等の家事」が64.2%で最も多く、次いで、「通院の援助」が48.8%、「屋内の移動、入浴、排泄、着替、食事等の身体的な介護」が42.7%、「本人の気持ちを支えるための見守り」が41.7%の順となっており、ケアラーが担っているケアが多岐に渡っている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「食事、洗濯、掃除等の家事」が82.8%で最も多く、次いで、「通院の援助」が78.0%、「役所等との連絡・諸手続」が73.1%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「本人の気持ちを支えるための見守り」が84.8%で最も多く、次いで、「食事、洗濯、掃除等の家事」が83.7%、「役所等との連絡・諸手続」が73.9%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「食事、洗濯、掃除等の家事」が60.6%で最も多く、次いで、「通院の援助」が43.5%、「身体的な介護」が42.0%の順であった。

ケアの内容【複数回答】

	地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=309)		障害者相談支援事業所(N=92)		民生委員・児童委員(N=2,103)		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除等の家事	256	82.8%	77	83.7%	1,274	60.6%	1,607	64.2%
買い物同行などの外出の援助	117	37.9%	42	45.7%	432	20.5%	591	23.6%
通院の援助	241	78.0%	67	72.8%	915	43.5%	1,223	48.8%
ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理	170	55.0%	46	50.0%	494	23.5%	710	28.4%
屋内の移動、入力、排泄、着替え、食事などの身体的な介護	125	40.5%	60	65.2%	884	42.0%	1,069	42.7%
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいるなどの見守り	207	67.0%	78	84.8%	758	36.0%	1,043	41.7%
徘徊や昼夜逆転など、認知症への行動への対応や防止のための見守り	83	26.9%	19	20.7%	270	12.8%	372	14.9%
服薬の声かけや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助け	169	54.7%	53	57.6%	476	22.6%	698	27.9%
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケア	15	4.9%	14	15.2%	66	3.1%	95	3.8%
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続	226	73.1%	68	73.9%	600	28.5%	894	35.7%
その他	26	8.4%	18	19.6%	78	3.7%	122	4.9%
未回答	10	3.2%	1	1.1%	269	12.8%	280	11.2%
計	1,645	※	543	※	6,516	※	8,704	※

※複数回答のため回答数がケアラーの数を上回っている。なお、割合はケアラーの数を分母としている。

(5) ケアの頻度

ケアの頻度について、「毎日」が66.5%で最も多く、次いで、「週2～3日」が10.2%、「週4～6日」が7.5%の順となっており、「毎日」と回答された方が全体の2/3を占めるなど、ケアの頻度が高い方が多くなっている。

- 域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「毎日」が70.6%で最も多く、次いで、「週2～3日」が8.1%、「週4～6日」が7.8%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「毎日」が77.2%で最も多く、次いで、「週4～6日」が6.5%、「月に数日」が6.5%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「毎日」が65.5%で最も多く、次いで、「週2～3日」が10.2%、「週4～6日」が7.5%の順であった。

ケアの頻度

	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答	計
地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=309)	218	24	25	11	23	8	309
	70.6%	7.8%	8.1%	3.6%	7.4%	2.6%	100.0%
障害者相談支援事業所(N=92)	71	6	5	1	6	3	92
	77.2%	6.5%	5.4%	1.1%	6.5%	3.3%	100.0%
民生委員・児童委員(N=2,103)	1,377	158	226	82	67	193	2,103
	65.5%	7.5%	10.7%	3.9%	3.2%	9.2%	100.0%
計	1,666	188	256	94	96	204	2,504
	66.5%	7.5%	10.2%	3.8%	3.8%	8.1%	100.0%

(6) 1日のケアの時間

ケアにかかる時間について、「8時間以上」が28.1%で最も多く、次いで、「2時間以上4時間未満」が15.9%、「1時間以上2時間未満」が11.1%の順となっている。一方、障害者相談支援所を通じた回答では、「8時間以上」が4割近くいるなど、ケアラーの負担がより大きくなっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「8時間以上」が23.3%で最も多く、次いで、「2時間以上4時間未満」が19.7%、「1時間以上2時間未満」が18.8%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「8時間以上」が38.0%で最も多く、次いで、「2時間以上4時間未満」が20.7%、「4時間以上6時間未満」が13.0%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「8時間以上」が28.4%で最も多く、次いで、「2時間以上4時間未満」が15.1%、「4時間以上6時間未満」が11.2%の順であった。

1日のケアの時間

	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	未回答	計
地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=309)	35	58	61	46	28	72	9	309
	11.3%	18.8%	19.7%	14.9%	9.1%	23.3%	2.9%	100.0%
障害者相談支援事業所 (N=92)	8	10	19	12	5	35	3	92
	8.7%	10.9%	20.7%	13.0%	5.4%	38.0%	3.3%	100.0%
民生委員・児童委員 (N=2,103)	87	210	317	235	197	597	460	2,103
	4.1%	10.0%	15.1%	11.2%	9.4%	28.4%	21.9%	100.0%
計	130	278	397	293	230	704	472	2,504
	5.2%	11.1%	15.9%	11.7%	9.2%	28.1%	18.8%	100.0%

(7) ケアの期間

ケアの期間について、「5年以上10年未満」が24.1%で最も多く、次いで「3年以上5年未満」が16.5%、「10年以上20年未満」が16.5%の順であった。

ケアの期間が5年以上の回答が半数を超える中で、「20年以上」の回答も11.5%を占めるなど、長期間ケアを担っているケアラーもいる。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「1年以上3年未満」が28.2%で最も多く、次いで、「5年以上10年未満」が25.6%、「3年以上5年未満」が16.5%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「20年以上」が37.0%で最も多く、次いで、「5年以上10年未満」が23.9%、「10年以上20年未満」が21.7%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「5年以上10年未満」が23.9%で最も多く、次いで、「10年以上20年未満」が17.0%、「3年以上5年未満」が16.9%の順であった。

ケアの期間

	20年以上	10年以上 20年未満	5年以上 10年未満	3年以上 5年未満	1年以上 3年未満	1年未満	未回答	計
地域包括支援センター、介護支援専門員等(N=309)	15 4.9%	37 12.0%	79 25.6%	51 16.5%	87 28.2%	32 10.4%	8 2.6%	309 100.0%
障害者相談支援事業所(N=92)	34 37.0%	20 21.7%	22 23.9%	7 7.6%	8 8.7%	1 1.1%	0 0.0%	92 100.0%
民生委員・児童委員(N=2,103)	238 11.3%	357 17.0%	502 23.9%	356 16.9%	301 14.3%	68 3.2%	281 13.4%	2,103 100.0%
計	287 11.5%	414 16.5%	603 24.1%	414 16.5%	396 15.8%	101 4.0%	289 11.5%	2,504 100.0%

4 ケアの影響について

(1) 本人の健康状態について

ケアラー本人の健康状態については、「休養がとれない」が31.0%で最も多く、次いで、「身体的不調」が25.4%、「精神的不調」が23.5%、「睡眠不足」が17.7%の順となっており、健康に何らかの不調を感じているケアラーが多くなっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「精神的不調」が39.5%で最も多く、次いで、「睡眠不足」が33.3%、「身体的不調」「休養がとれない」が32.4%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「精神的不調」が50.0%で最も多く、次いで、「休養がとれない」が43.5%、「睡眠不足」が42.4%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「休養がとれない」が28.9%で最も多く、次いで、「身体的不調」が23.0%、「精神的不調」が18.9%の順であった。

本人の健康状態【複数回答】

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=309)		障害者相談支援事業 所割合(N=92)		民生委員・児童委員 (N=2,103)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
身体的不調がある	100	32.4%	30	32.6%	483	23.0%	613	25.4%
精神的不調がある	122	39.5%	46	50.0%	398	18.9%	566	23.5%
睡眠不足	103	33.3%	39	42.4%	285	13.6%	427	17.7%
通院中	60	19.4%	24	26.1%	157	7.5%	241	10.0%
持病があるが通院できない	6	1.9%	6	6.5%	46	2.2%	58	2.4%
健康診断に行く時間がない	13	4.2%	9	9.8%	29	1.4%	51	2.1%
休養がとれない	100	32.4%	40	43.5%	608	28.9%	748	31.0%
運動不足	51	16.5%	18	19.6%	150	7.1%	219	9.1%
その他	47	15.2%	13	14.1%	179	8.5%	239	9.9%
未回答	24	7.8%	5	5.4%	747	35.5%	776	32.2%
	626	※	230	※	3,082	※	3,938	※

※複数回答のため回答数がケアラーの数を上回っている。なお、割合はケアラーの数を分母としている。

(2) ケアによる就労・就学への影響

ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）について、「就労状況に変化はない」が14.0%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が8.5%、「ケアのため退職した」が7.0%の順となっており、「就労状況に変化がない」とした回答が多かったものの、ケアのために就労環境を変えたケアラーもいる。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「就労状況に変化はない」が20.1%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が13.6%、「ケアのため退職した」が10.4%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「就労状況に変化はない」が22.6%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が19.4%、「ケアのため退職した」が17.2%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「就労状況に変化はない」が12.7%で最も多く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」が7.3%、「ケアのため退職した」が6.0%の順であった。

就労・就学への影響

	地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=309)		障害者相談支援事業所(N=92)		民生委員・児童委員 (N=2,103)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ケアのために退職した	32	10.4%	16	17.4%	127	6.0%	175	7.0%
ケアのために勤務時間を減らした	42	13.6%	18	19.6%	154	7.3%	214	8.5%
ケアのために転職した	9	2.9%	6	6.5%	41	1.9%	56	2.2%
ケアのために就労経験がない	5	1.6%	6	6.5%	60	2.9%	71	2.8%
就労状況に変化はない	62	20.1%	21	22.8%	268	12.7%	351	14.0%
ケアのために進学をあきらめた	1	0.3%	2	2.2%	4	0.2%	7	0.3%
学校を休みがちになっている	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
勉強の時間が充分に取れない	1	0.3%	0	0.0%	4	0.2%	5	0.2%
成績が落ちた	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
友人と遊ぶことができない	4	1.3%	0	0.0%	8	0.4%	12	0.5%
学校への遅刻が多い	0	0.0%	0	0.0%	3	0.1%	3	0.1%
部活ができない	0	0.0%	0	0.0%	3	0.1%	3	0.1%
授業に集中できない	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
進路についてしっかり考える余裕がない	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%
未回答	152	49.2%	23	25.0%	1,427	67.9%	1,602	64.0%
計	309	100.0%	92	100.0%	2,103	100.0%	2,504	100.0%

(3) 就労を続けてられている理由

就労を続けられている理由について、「各種サービスの利用」が52.4%で最も多く、次いで、「家族のサポート」が42.4%、「勤務時間の短縮」22.8%の順となっており、各種サービスを利用することによって就労を継続している回答が多かった。また、「その他」の回答として「有期休暇」、「職場の理解」などの回答があった。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「家族のサポート」が46.3%で最も多く、次いで、「各種サービスの利用」が45.5%、「その他（有期休暇、職場の理解、自営業など）」が27.3%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「各種サービスの利用」が57.6%で最も多く、次いで、「家族のサポート」が42.4%、「勤務時間の短縮」「その他（職場の理解、在宅ワークなど）」がそれぞれ24.2%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「各種サービスの利用」が53.7%で最も多く、次いで、「家族のサポート」が41.5%、「勤務時間の短縮」が22.2%の順であった。

就労を続けられている理由【複数回答】

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=121)		障害者相談支援事 業所(N=33)		民生委員・児童委 員(N=544)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
各種サービスの利用	55	45.5%	19	57.6%	292	53.7%	366	52.4%
家族のサポート	56	46.3%	14	42.4%	226	41.5%	296	42.4%
勤務時間の短縮	30	24.8%	8	24.2%	121	22.2%	159	22.8%
配置転換・勤務地変更	3	2.5%	0	0.0%	9	1.7%	12	1.7%
転職	8	6.6%	2	6.1%	21	3.9%	31	4.4%
介護休暇の取得	6	5.0%	0	0.0%	9	1.7%	15	2.1%
相談先の紹介	6	5.0%	2	6.1%	14	2.6%	22	3.2%
その他	33	27.3%	8	24.2%	84	15.4%	125	17.9%
計	197	※	53	※	776	※	1,026	

※複数回答のため回答数が回答者数を上回っている。なお、割合は回答者の数を分母としている。

(4) ケアを機に退職した理由

ケアのために退職・退学した理由について、「代わりにケアを担う人がいない」が66.3%で最も多く、次いで、「ケアと両立できる職場環境ではなかった」が24.0%の順であり、「ケアを担う人がいない」とした理由が2/3以上を占めている。一方、「身体的疲労」、「精神的疲労」とする回答がそれぞれ15.4%となっており、本人の疲労に伴う退職もあった。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「代わりにケアを担う人がいない」が68.6%で最も多く、次いで、「精神的疲労」が37.5%、「身体的疲労」が34.4%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「代わりにケアを担う人がいない」が75.0%で最も多く、次いで、「ケアとの両立」が25.0%、「精神的疲労」が18.8%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「代わりにケアを担う人がいない」が64.6%で最も多く、次いで、「ケアと両立できる職場環境ではなかった」が23.6%、「身体的疲労」が11.0%の順であった。

ケアを機に退職した理由【複数回答】

	地域包括支援センター・介護支援専門員等(N=32)		障害者相談支援事業所(N=16)		民生委員・児童委員(N=127)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
身体的疲労	11	34.4%	2	12.5%	14	11.0%	27	15.4%
精神的疲労	12	37.5%	3	18.8%	12	9.4%	27	15.4%
代わりにケアを担う人がいない	22	68.8%	12	75.0%	82	64.6%	116	66.3%
サービスが利用できなくなった	0	0.0%	0	0.0%	3	2.4%	3	1.7%
業務が多忙でケアの時間がとれない	3	9.4%	2	12.5%	7	5.5%	12	6.9%
ケアと両立できる職場環境ではなかった	8	25.0%	4	25.0%	30	23.6%	42	24.0%
退職を勧められた	2	6.3%	1	6.3%	2	1.6%	5	2.9%
その他	3	9.4%	0	0.0%	8	6.3%	11	6.3%
未回答	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%
計	63 ※		24 ※		158 ※		245	

※複数回答のため回答数の計が回答者数を上回っている。なお、割合はケアを機に退職した回答した者の数を分母としている。

5 ケアに関する相談

(1) 相談している窓口・機関

信頼して相談している窓口・機関について、「ケアマネジャー」が 39.1%で最も多く、次いで、「医療機関」が 24.3%、「サービス事業所」20.7%、「地域包括支援センター」が 18.7%の順となっており、ケアマネジャー、地域包括支援センター、サービス事業所などがケアラーにとって重要な相談機関となっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「ケアマネジャー」が 65.0%で最も多く、次いで、「家族」が 46.9%、「地域包括支援センター」が 40.1%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「相談支援事業所」が 57.6%で最も多く、次いで、「障害福祉サービス事業所の職員」が 51.1%、「家族」が 50.0%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「ケアマネジャー」が 37.0%で最も多く、次いで、「家族」が 31.5%、「医療機関」が 22.3%の順であった。

相談している窓口・機関【複数回答】

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=309)		障害者相談支援事業所(N=92)		民生委員・児童委員 (N=2,103)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
あなたの家族	145	46.9%	46	50.0%	662	31.5%	853	34.1%
家族会	6	1.9%	8	8.7%	51	2.4%	65	2.6%
地域包括支援センター	124	40.1%	—	—	343	16.3%	467	18.7%
ケアマネジャー	201	65.0%	—	—	778	37.0%	979	39.1%
障害者(児)相談支援事業所	12	3.9%	53	57.6%	101	4.8%	166	6.6%
障害福祉サービス事業所の職員	—	—	0	0.0%	—	—	0	0.0%
子育て支援機関	0	0.0%	5	5.4%	15	0.7%	20	0.8%
民生委員・児童委員	14	4.5%	3	3.3%	319	15.2%	336	13.4%
医療機関	95	30.7%	43	46.7%	470	22.3%	608	24.3%
サービス事業所	80	25.9%	47	51.1%	391	18.6%	518	20.7%
電話相談窓口	0	0.0%	3	3.3%	11	0.5%	14	0.6%
その他	12	3.9%	13	14.1%	69	3.3%	94	3.8%
誰もいない	7	2.3%	1	1.1%	—	—	8	0.3%
未回答	20	6.5%	0	0.0%	491	23.3%	511	20.4%
計	716※		222※		3,701※		4,639	

※複数回答のため回答数がケアラーの数を上回っている。なお、割合はケアラーの数を分母としている。

(2) ケアラーの悩み

ケアラー本人の悩みをについて、「心身の健康」が 33.7%で最も多く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」が 20.9%、「将来の見通しが持てない」16.4%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」が 15.4%、「経済的な問題」11.8%など、ケアの状況により抱える悩みは異なり、多様なものとなっている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「心身の健康」が 46.9%で最も多く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」が 46.9%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」が 25.9%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「心身の健康」が 53.3%で最も多く、次いで、「将来への見通し」が 46.7%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」が 43.5%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「心身の健康」が 30.9%で最も多く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」が 18.6%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」が 12.6%の順であった。

ケアラーの悩み【複数回答】

	地域包括支援センター・介護支援専門員割合(N=309)		障害者相談支援事業所(N=92)		民生委員・児童委員(N=2,103)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
心身の健康	145	46.9%	49	53.3%	649	30.9%	843	33.7%
経済的な問題	61	19.7%	25	27.2%	209	9.9%	295	11.8%
仕事に就けない	19	6.1%	14	15.2%	51	2.4%	84	3.4%
職場の人間関係	4	1.3%	2	2.2%	6	0.3%	12	0.5%
仕事とケアと自分の生活とのバランス	70	22.7%	20	21.7%	185	8.8%	275	11.0%
学校にいけない	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%
ケアをしている相手との関係	69	22.3%	22	23.9%	203	9.7%	294	11.7%
家族関係	31	10.0%	20	21.7%	104	4.9%	155	6.2%
近隣との関係	6	1.9%	11	12.0%	109	5.2%	126	5.0%
医療機関やサービス事業所との関係	10	3.2%	9	9.8%	81	3.9%	100	4.0%
行政との関係	5	1.6%	3	3.3%	33	1.6%	41	1.6%
自分の自由な時間が取れない	102	33.0%	31	33.7%	391	18.6%	524	20.9%
ケアしている相手へのサービスの質・量の不足	21	6.8%	20	21.7%	75	3.6%	116	4.6%
あなたの緊急時、ケアをしている相手へのサービス	80	25.9%	40	43.5%	266	12.6%	386	15.4%
将来への見通しが持てない	63	20.4%	43	46.7%	305	14.5%	411	16.4%
ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる	17	5.5%	7	7.6%	94	4.5%	118	4.7%
その他	14	4.5%	3	3.3%	28	1.3%	45	1.8%
特になし	22	7.1%	4	4.3%	140	6.7%	166	6.6%
未回答	20	6.5%	0	0.0%	648	30.8%	668	26.7%
計	759	※	323	※	3,579	※	4,661	※

※複数回答のため回答数がケアラーの数を上回っている。なお、割合はケアラーの数を分母としている。

(3) 代わりにケアを担ってくれる人の有無

代わりにケアを担ってくれる人の有無の構成割合について、「いない」が21.1%で最も多く、次いで、「頼めばいる」が20.0%、「いる」が19.6%の順であり、代わりにケアを担ってくれる人がいない中でケアを担っているケアラーも多い。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「いない」が21.3%で最も多く、次いで、「頼めばいる」が20.9%、「頼めばいるが頼みにくい」が22.3%の順であった。
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「いない」が34.8%で最も多く、次いで、「頼めばいるが頼みにくい」が23.9%、「頼めばいる」が20.7%の順であった。
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「いる」が20.3%で最も多く、次いで、「頼めばいる」が19.4%、「いない」が19.2%の順であった。

代わりにケアを担ってくれる人の有無

	いる	頼めばいる	頼めばいるが 頼みにくい	いない	未回答	計
地域包括支援センター・介護支援専門員等 (N=309)	49	73	69	93	25	309
	15.9%	23.6%	22.3%	30.1%	8.1%	100.0%
障害者相談支援事業所 (N=92)	16	19	22	32	3	92
	17.4%	20.7%	23.9%	34.8%	3.3%	100.0%
民生委員・児童委員 (N=2,103)	426	408	264	404	601	2,103
	20.3%	19.4%	12.6%	19.2%	28.6%	100.0%
計	491	500	355	529	629	2,504
	19.6%	20.0%	14.2%	21.1%	25.1%	100.0%

6 求める支援について

(1) ケアラーに必要と思われる支援について

必要と考える支援について、「ケアの相手方の生活の継続」が28.7%で最も多く、次いで、「役立つ情報の提供」が24.6%、「災害時も含め、緊急時に生活を変えないサービス」21.8%、「気軽に急速や睡眠がとれる機会の確保」20.4%、「相談体制の整備」17.3%の順となっており、相談体制を整備し、ケアを続けている上で役立つ情報を届けていくことや、いざというときにケアの相手の生活を変えないための支援が求められている。

- 地域包括支援センター・介護支援専門員等を通じた回答では、「ケアの相手方の生活の継続」が40.8%で最も多く、次いで、「役立つ情報の提供」が29.8%の順であった
- 障害者相談支援事業所を通じた回答では、「ケアの相手方の生活の継続」が59.8%で最も多く、次いで、「災害時も含め、緊急時に生活を変えないサービス」が41.3%の順であった
- また、民生委員・児童委員を通じた回答では、「ケアの相手方の生活の継続」が25.6%で最も多く、次いで、「役立つ情報の提供」が23.3%の順であった。

ケアラーに必要と思われる支援【複数回答】

	地域包括支援センター・ 介護支援専門員等 (N=309)		障害者相談支援事業 所(N=92)		民生委員・児童委員 (N=2,103)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	55	17.8%	29	31.5%	348	16.5%	432	17.3%
ケアラーに役立つ情報の提供	92	29.8%	34	37.0%	490	23.3%	616	24.6%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	64	20.7%	37	40.2%	409	19.4%	510	20.4%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	42	13.6%	23	25.0%	253	12.0%	318	12.7%
勤務しやすい柔軟な働き方	37	12.0%	16	17.4%	77	3.7%	130	5.2%
就労及び再就職への支援	14	4.5%	9	9.8%	24	1.1%	47	1.9%
24時間対応の在宅サービスの提供	37	12.0%	19	20.7%	225	10.7%	281	11.2%
入居施設等の生活の場の整備・充実	41	13.3%	24	26.1%	217	10.3%	282	11.3%
ケアをしている相手の生活を変えないサービス	85	27.5%	38	41.3%	422	20.1%	545	21.8%
あなたがなくなった後、ケアの相手方の生活の継続	126	40.8%	55	59.8%	538	25.6%	719	28.7%
社会的なケアラー支援への理解	29	9.4%	21	22.8%	141	6.7%	191	7.6%
専門職や行政職員のケアラー支援への理解	29	9.4%	19	20.7%	112	5.3%	160	6.4%
経済的支援	55	17.8%	25	27.2%	174	8.3%	254	10.1%
ケアラーの健康管理への支援	46	14.9%	25	27.2%	325	15.5%	396	15.8%
その他	11	3.6%	6	6.5%	26	1.2%	43	1.7%
未回答	52	16.8%		0.0%	597	28.4%	649	25.9%
計	815	※	380	※	4,378	※	5,573	

※複数回答のため回答数がケアラーの数を上回っている。なお、割合はケアラーの数を分母としている。

7 行政、関係機関等への要望（主なもの）

地域包括支援センター・介護支援専門員等

- ケアラー緊急時のショートステイの対応をスムーズにできる様をお願いしたい。
- 平日中（8：30-17：30）しか連絡がとれない機関が多く、仕事から抜けて電話をかけている。夜間、休日に連絡が取れる、もしくはメールでのやり取りなど、仕事に支障が出ない工夫を望む。（ケアラーが職場で肩身が狭くなる理由になる）
- 自分に何かあった時の不意の事故の時などが一番気にかかる。
- ケアラーの人にも息抜きできるようなサービス環境などもっとできれば助かります。
- 「24時間対応の在宅サービスの提供」の充実を望んでいる。
- 特養は増やしてほしいです。年金が少ない人にとっては、金額が多少抑えられる施設が必要。子供(介護者)にも自分たちの生活があるわけですから。もっと現場、現実を知ってほしいです。
- 周囲の理解（職場内）。ケアラー自身も周囲に伝えることも大切。
- ケアラー支援の視点からみた在宅介護について行政や関係機関が連携してほしい
- ケアラーに対する精神面や経済面のフォロー
- ケアラー自身が孤独や孤立を感じることがないように役立つ情報や日頃からのサポートがあるとありがたい。
- ケアをしている相手の実情を知っている人で不安や愚痴を話せる人が身近にいない。お世話になっている関係者に共感していただけるとホッとすることがある。
- 行政や関係期間の方々には、本人はもとよりケアラーの心に寄り添って言葉かけ等をしていただければ気持ちが楽になる人が多いと思う。
- 民生委員、児童委員も含め、どんな些細なことでも話しやすい窓口で受け止めてほしい。
- 友人でも知人でも親戚でもなく、思いきって心話せる行政や関係機関がもっとあれば助かる。
- なかなか相談に乗ってほしいと思っても、内容によってどこに行ってもいいかわからないし、行政の方の対応も親切ではあるが、親身にはなってもらえない。
- こどもや若者ケアラーを第一に考えてほしい。一番に支援してあげてほしい。
- 外出を控える事でケアをしている相手と一緒にいる時間が増え精神的に疲れる
- 支援する側も過敏になっている。仕方がないが高齢のケアラーには精神的な負担が大きい

障害相談支援事業所

- 心身共に疲れ切っているのに、安心して本人が生活できる施設やグループホームを探してほしい。
- 本人や自分のことを含め状況に応じて基準以上のサービス（短期入所）を利用できるように対応してもらえている。今のところ本人も満足している。これからも状況に応じて対応してもらえてたら助かる。
- 将来の入所通所施設が少ないので増やしてほしい。社会資源少ない。
- 日本では、障害者高齢者の世話は家族（特に家庭の母（妻））がするものという意識が根強く、家庭内ですら母がいるなら他の家族は手出ししない風潮もあるので、そうではなく、家族地域など周囲の人すべてで見守る、手伝うのが当たり前の風潮を作してほしい。
その上で福祉サービスとしてどこまでうけおってもらえるのかはつきり提示してほしい。家族としては「こんなことまで依頼するのは凶々しいかも」と思ってあきらめていることもおおいのではないか。また緊急時は土日夜間を選ばないので「110」のようにいつでもSOSを出せるようにしてほしい。
- 自分が病気をしたりいなくなった後のことが心配です。できれば入所じゃなくてグループホーム（今のデイに通えるようなところ）に入れてあげたい。
- まずはさらにケアラーの実態等を広く世間の一般の方々認知してほしい。一人のケアだけでなく複数のケアをしている人（ケアラー）もかなり多いと思う。
- 誰にも相談できないとしんどいので、話を聞いてもらっているのはありがたい。本人が人に助けてほしいという気持ちがなく、もっと本人が周囲に相談できるとよい。
- 外出・外食でリズムをつくっていたが、それができなくなりリズムがくずれ、不規則な生活となり、昼夜逆転も含めて、いつ活動するのかわからず24時間の待機・見守りが必要になった。
- 自閉症なのでいつもと違う雰囲気や習慣化した行動ができないことにはいらしがちで、それにつきあうケアラーも疲れている。家から出られない、いつも行くショッピングモールがあいていないなど、本人のストレスがたまっているのはわかるが、どうしてもあげられない無気力になってきているのが心配です。
- コロナ下でも、通所サービスを継続していただいているのはありがたい。
- ヘルパーが来にくくなったこと。支給決定してもらっているが、ヘルパー不足のため利用時間が大幅に減った。（重度訪問介護）

民生委員・児童委員

- ケアラー本人が入院したり、健康を害した時の手厚い対応。
- 老老介護の為、不安が尽きない。ケアラーがいなくなった時の残された夫の今後についても常に思い悩まれている。
- ケアラー同士が情報交換できる場所作り
- 家庭の問題となり、支援に結びつけるには根気強く支援を継続できる体制や高齢化するケアラーへの支援が必要。
- 電話や訪問による相談体制の整備
- 行政職員全体がケアラーについて理解していないので、基礎知識を教育して欲しい。
- ケアラーに役立つ情報不足
- ケアラーへのきっちりとした支援体制の確立
- ケアラーが孤立しがちなので、気軽に相談できる行政窓口の整備が早急に必要であると思う。
- 介護を家庭の問題として捉える風潮が強く、問題が十分認識されてこなかったと思う。公助からも考えてもらいたい。
- ケアマネ通じての状況把握が大事。
- 経済的に苦しいので、ケアラーより若いケア者の就労支援
- 相談する場所がわからない。
- ケアラーがいなくなった後の事を心配している。(既にケアラーが高齢になっている為)
- "担当地域にケアラーがどれ位いるのか把握できておらず、近所の噂や救急車が来て初めて実態が分かる。行政機関、事業所等がタイアップし、民生委員にも情報を共有すべき。"
- 個人情報管理からケアラーの把握は大変難しい。行政、医療、サービス機等と、民生委員が情報を共有すべき。
- 特養等の受け入れを早くして欲しい。
- 24時間ケアを助けてくれる人が欲しい。
- 認知症で目が離せないと思う。行政等の24H支援体制(安価)があればケアラーも少しは余裕が出来るのでは。
- 社会から孤立することのない様、総合支援センターへ見守り訪問をお願いしたい。
- ケアラーに対しての理解を深めて欲しい。

兵庫県ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査の報告について

（ 要保護児童対策地域協議会、民生委員・児童委員、こども食堂、
地域包括支援センター・介護支援専門員等、障害者（児）相談支援事業所 ）

1 調査方法

（1）要保護児童対策地域協議会

市町（神戸市除く）の児童福祉主管課（要保護児童対策地域協議会）へ調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月19日～5月7日
- 記入者：機関
- 回答数：184

（2）民生委員・児童委員

市町民生委員児童委員協議会（連合会）（神戸市除く）に郵送で調査票を送付し、同協議会より民生委員・児童委員に調査票を配付し、調査を実施。

- 期 間：令和3年4月1日～10月31日
- 記入者：機関
- 回収状況：57

（3）こども食堂

県下市町（神戸市除く）の子ども食堂主管課あて依頼し、市町が把握している子ども食堂あて、子ども食堂主管課から調査票を送付のうえ調査を実施。

- 期 間：令和3年4月1日～5月31日
- 記入者：こども食堂運営者
- 回答数：10

（4）地域包括支援センター

市町の地域包括支援センター担当者を通じて、管内のセンターに調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月1日～6月30日
- 記入者：本人・機関
- 回答数：3

(5) 介護支援専門員等

兵庫県介護支援専門員協会各支部において、介護支援専門員が個別に利用者に依頼し承諾のあった方に調査票を配布して実施。

- 期 間：令和3年4月1日～5月21日
- 記 入 者：本人・機関
- 回 答 数：4

(6) 障害者（児）相談支援事業所

市町を通じて市町の委託相談支援事業所に調査票を配布し、事業所で関わりのあるケアラーに依頼し調査を実施。

- 回収状況：令和3年4月1日～5月14日
- 記 入 者：本人
- 回 答 数：15

2 ヤングケアラーの属性について

(1) 性別・年齢

ヤングケアラーの性別の構成割合については、「男性」37.6%、「女性」60.1%であった。また、ヤングケアラーの年齢は、「13歳」が17.9%で最も高く、次いで、「14歳」が15.4%、「12歳」が11.4%、「15歳」が9.9%の順であった。（平均：13.1歳）。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「男性」35.3%、「女性」64.7%であった。また、年齢については、「13歳」が19.6%で最も高く、次いで、「14歳」が15.8%、「12歳」が13.6%、「15歳」が10.3%の順であった。（平均：12.6歳）
- 民生委員・児童委員、こども食堂、介護支援専門員、地域包括支援センター、障害者（児）相談支援事業所（以下「民生委員・児童委員等」という。）を通じた回答では、「男性」41.6%、「女性」50.6%であった。また、年齢については、「13歳」「14歳」「17歳」がそれぞれ14.6%で最も高く、次いで、「15歳」が9.0%の順であった。（平均：14.4歳）

ヤングケアラーの年齢

	7歳以下	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	5 2.7%	4 2.2%	16 8.7%	13 7.1%	18 9.8%	25 13.6%	36 19.6%	29 15.8%	19 10.3%	8 4.3%	9 4.9%	2 1.1%	0 0.0%	184 100.0%
民生委員・児童委員等(N=89)	2 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	2 2.2%	6 6.7%	13 14.6%	13 14.6%	8 9.0%	4 4.5%	13 14.6%	6 6.7%	21 23.6%	89 100.0%
計	7 2.6%	4 1.5%	16 5.9%	14 5.1%	20 7.3%	31 11.4%	49 17.9%	42 15.4%	27 9.9%	12 4.4%	22 8.1%	8 2.9%	21 7.7%	273 100.0%

(2) 就学の状況

ヤングケアラーの就学状況については、「小学生」26.0%、「中学生」46.9%、「高校生」22.0%であり、中学生が半数程度を占めている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「小学生」32.6%、「中学生」48.4%、「高校生」17.4%であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「小学生」12.4%、「中学生」43.8%、「高校生」31.5%であった。

就学の状況

	小学生	中学生	高校生	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	60	89	32	3	184
	32.6%	48.4%	17.4%	1.6%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=89)	11	39	28	11	89
	12.4%	43.8%	31.5%	12.4%	100.0%
計	71	128	60	14	273
	26.0%	46.9%	22.0%	5.1%	100.0%

(3) ヤングケアラーの認識

ヤングケアラーが「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合について、「いる」14.3%、「いない」41.4%であり、ヤングケアラーであると認識をもっていない割合は、4割を超えている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「いる」14.1%、「いない」34.2%、「未回答」51.6%であり、ヤングケアラーであると認識をもっている割合は少数にとどまっている。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「いる」14.6%、「いない」56.2%、「未回答」29.2%であった。

ヤングケアラーの認識

	いる	いない	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	26	63	95	184
	14.1%	34.2%	51.6%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=89)	13	50	26	89
	14.6%	56.2%	29.2%	100.0%
計	39	113	121	273
	14.3%	41.4%	44.3%	100.0%

3 被介護者の属性について

(1) ヤングケアラーがケアをしている相手

ケアをしている相手については、「兄弟姉妹」が55.5%で最も多く、次いで、「母」が24.4%、「祖父母」が6.3%の順であり、ケアの相手が兄弟姉妹とする回答が半数以上となっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「兄弟姉妹」が63.5%で最も多く、次いで、「母」が24.5%、「父」が5.0%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「兄弟姉妹」が37.4%で最も多く、次いで、「母」が24.3%、「祖父母」が15.0%の順であった。

被介護者の状況

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=107)		計	
父	12	5.0%	9	8.4%	21	6.0%
母	59	24.5%	26	24.3%	85	24.4%
継父	2	0.8%	0	0.0%	2	0.6%
継母	1	0.4%	2	1.9%	3	0.9%
祖父母	6	2.5%	16	15.0%	22	6.3%
兄弟姉妹	153	63.5%	40	37.4%	193	55.5%
義兄弟姉妹	5	2.1%	0	0.0%	5	1.4%
従兄弟	1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%
伯叔父母	0	0.0%	1	0.9%	1	0.3%
その他	2	0.8%	2	1.9%	4	1.1%
未回答	0	0.0%	11	10.3%	11	3.2%
計	241	100.0%	107	100.0%	348	100.0%

(2) ケアをする相手の年齢状況

ケアをしている相手の年齢については、「10歳未満」が43.4%で最も多く、次いで、「40代」が14.1%、「10代」が11.8%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「10歳未満」が52.7%で最も多く、次いで、「40代」が12.9%、「30代」が11.2%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「10代未満」が22.4%で最も多く、次いで、「10代」「40代」がともに16.8%の順であった。

ケアをしている相手の年齢

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=107)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
10歳未満	127	52.7%	24	22.4%	151	43.4%
10歳代	23	9.5%	18	16.8%	41	11.8%
20歳代	8	3.3%	4	3.7%	12	3.4%
30歳代	27	11.2%	5	4.7%	32	9.2%
40歳代	31	12.9%	18	16.8%	49	14.1%
50歳代	5	2.1%	8	7.5%	13	3.7%
60歳代	2	0.8%	4	3.7%	6	1.7%
70歳代	5	2.1%	9	8.4%	14	4.0%
80歳以上	1	0.4%	5	4.7%	6	1.7%
未回答	12	5.0%	12	11.2%	24	6.9%
計	241	100%	107	100.0%	348	100.0%

(3) ケアをしている相手の状況

ケアをしている相手の状況については、「幼い」が 44.5%で最も多く、次いで、「精神障害」が 13.2%、「知的障害」が 8.0%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「幼い」が 55.6%で最も多く、次いで、「精神障害」が 12.9%、「知的障害」が 6.6%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「幼い」が 19.6%で最も多く、次いで、「精神障害」が 14.0%、「知的障害」が 10.3%の順であった。

ケアをしている相手の状況(複数回答)

	要保護児童対策地域協議会(N=241)		民生委員・児童委員等(N=107)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
病気	12	5.0%	10	9.3%	22	6.3%
難病	1	0.4%	3	2.8%	4	1.1%
身体障害	10	4.1%	11	10.3%	21	6.0%
知的障害	16	6.6%	12	11.2%	28	8.0%
精神障害	31	12.9%	15	14.0%	46	13.2%
発達障害	10	4.1%	9	8.4%	19	5.5%
医療的ケアが必要な障害児	2	0.8%	1	0.9%	3	0.9%
高次脳機能障害	0	0.0%	3	2.8%	3	0.9%
依存症	7	2.9%	4	3.7%	11	3.2%
認知症	1	0.4%	3	2.8%	4	1.1%
心身機能の低下	10	4.1%	4	3.7%	14	4.0%
幼い	134	55.6%	21	19.6%	155	44.5%
その他	15	6.2%	36	33.6%	51	14.7%
計	249 ※		132 ※		381 ※	

※複数回答のため回答数が被介護者の数を上回っている。なお、割合は被介護者数を分母としている。

(4) ケアの内容

ヤングケアラーの行っているケアの内容については、「きょうだいのケア」が54.2%で最も多く、次いで、「家の中の家事（食事の用意、後片付け、選択、掃除など）」が48.7%、「感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかけるなど）」が16.1%の順となっており、きょうだいの世話だけでなく、家事や、感情面のケアなど多様なケアを担っている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「きょうだいのケア」が60.3%で最も多く、次いで、「家の中の家事」が47.3%、「家庭管理（買い物など）」が13.0%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「家の中の家事」が51.7%で最も多く、次いで、「きょうだいのケア」が41.6%、「感情面のケア」が25.8%の順であった。

ケアの内容【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会 (N=184)		民生委員・児童委員等 (N=89)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
家の中の家事	87	47.3%	46	51.7%	133	48.7%
家庭管理	24	13.0%	17	19.1%	41	15.0%
金銭管理	5	2.7%	1	1.1%	6	2.2%
家計支援	5	2.7%	4	4.5%	9	3.3%
言語やコミュニケーションのサポート	2	1.1%	2	2.2%	4	1.5%
医療関連の手助け	0	0.0%	6	6.7%	6	2.2%
通院の介助	0	0.0%	8	9.0%	8	2.9%
入院や入所をしている家族に会いに行く	1	0.5%	3	3.4%	4	1.5%
医療的ケア	0	0.0%	2	2.2%	2	0.7%
身の周りのケア	22	12.0%	19	21.3%	41	15.0%
感情面のケア	21	11.4%	23	25.8%	44	16.1%
きょうだいのケア	111	60.3%	37	41.6%	148	54.2%
その他	5	2.7%	2	2.2%	7	2.6%
不明	0	0.0%	12	13.5%	12	4.4%
	283 ※		182 ※		465 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(5) ケアの頻度

ケアの頻度については、「毎日」が47.3%で最も多く、次いで、「週4～6日」が8.1%、「月に数日」が4.4%の順となっており、毎日ケアをしているヤングケアラーが半数近くとなっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「毎日」が48.4%で最も多く、次いで、「週4～6日」が7.6%、「月に数日」が3.8%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「毎日」が44.9%で最も多く、次いで、「週2～3日」「週4～6日」がともに9.0%の順であった。

ケアの頻度

	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答	計
要保護児童対策地域協議会(N=184)	89	14	3	3	7	68	184
	48.4%	7.6%	1.6%	1.6%	3.8%	37.0%	100.0%
民生委員・児童委員等(N=89)	40	8	8	0	5	28	89
	44.9%	9.0%	9.0%	0.0%	5.6%	31.5%	100.0%
計	129	22	11	3	12	96	273
	47.3%	8.1%	4.0%	1.1%	4.4%	35.2%	100.0%

(6) 1日のケアの時間

ケアにかかる時間については、「1 時間以上 2 時間未満」が 18.3%で最も多く、次いで、「2 時間以上 4 時間未満」が 15.0%、「1 時間未満」が 7.3%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「2 時間以上 4 時間未満」が 17.4%で最も多く、次いで、「1 時間以上 2 時間未満」が 15.8%、「4 時間以上 6 時間未満」が 4.3%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「1 時間以上 2 時間未満」が 23.6%で最も多く、次いで、「1 時間未満」が 14.6%、「2 時間以上 4 時間未満」が 10.1%の順であった。

1日のケアの時間

	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	未回答	計
要保護児童対策地 域協議会(N=184)	7	29	32	8	3	6	99	184
	3.8%	15.8%	17.4%	4.3%	1.6%	3.3%	53.8%	100.0%
民生委員・児童委員 等(N=89)	13	21	9	4	6	2	34	89
	14.6%	23.6%	10.1%	4.5%	6.7%	2.2%	38.2%	100.0%
計	20	50	41	12	9	8	133	273
	7.3%	18.3%	15.0%	4.4%	3.3%	2.9%	48.7%	100.0%

(7) ケアの期間

ケアの期間については、「小学校 4～6 年生頃から」が 22.3%で最も多く、次いで、「小学校 1～3 年生頃から」が 15.4%、「中学生のとき」が 15.0%の順であった。このほか、「小学校入学前から」が 12.8%と、幼少のころからケアを担ってきたヤングケアラーもいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「小学校 4～6 年生頃から」が 22.6%で最も多く、次いで、「小学校 1～3 年生頃から」が 20.1%、「小学校入学前から」が 15.2%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「小学校 4～6 年生頃から」が 27.0%で最も多く、次いで、「中学生のとき」が 19.1%の順であった。

ケアの期間

	小学校 入学前から	小学校 1～3年生頃	小学校 4～6年生頃	中学生の とき	高校生に なってから	未回答	計
要保護児童対策地域協議 会(N=184)	25	33	37	24	1	64	184
	15.2%	20.1%	22.6%	14.6%	0.6%	39.0%	100.0%
民生委員・児童委員等 (N=89)	10	9	24	17	5	24	89
	11.2%	10.1%	27.0%	19.1%	5.6%	27.0%	100.0%
計	35	42	61	41	6	88	273
	12.8%	15.4%	22.3%	15.0%	2.2%	32.2%	100.0%

(8) ケアの理由

ケアの理由については、「年下のきょうだいがいるため」が44.3%で最も多く、次いで、「ひとり親家庭であるため」が28.2%、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」が27.8%の順であった。このほか、「親が仕事で、忙しいため」が24.5%、「親が家事をしない状況のため」が21.6%と親の仕事などによって家事をせざるをえないヤングケアラーがいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「年下のきょうだいがいるため」が54.3%で最も多く、次いで、「ひとり親家庭であるため」が31.0%、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」が29.9%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」「年下のきょうだいがいるため」がともに23.6%で最も多く、次いで、「ひとり親家庭であるため」が22.5%、「親が仕事で忙しいため」が21.3%の順であった。

ケアをしている理由【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=89)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
親の病気や障害、精神疾患、入院のため	55	29.9%	21	23.6%	76	27.8%
ひとり親家庭であるため	57	31.0%	20	22.5%	77	28.2%
親が仕事で、忙しいため	48	26.1%	19	21.3%	67	24.5%
年下のきょうだいがいるため	100	54.3%	21	23.6%	121	44.3%
祖父母の病気や加齢、入院のため	5	2.7%	5	5.6%	10	3.7%
きょうだいに障害があるため	15	8.2%	15	16.9%	30	11.0%
親が家事をしない状況のため	45	24.5%	14	15.7%	59	21.6%
親にとって日本語が第一言語でないため	3	1.6%	1	1.1%	4	1.5%
福祉サービスを利用していないため	9	4.9%	2	2.2%	11	4.0%
他にケアをする人がいなかったため	25	13.6%	14	15.7%	39	14.3%
ケアをしたいとケアラー自身が思ったため	7	3.8%	11	12.4%	18	6.6%
その他	4	2.2%	8	9.0%	12	4.4%
未回答	5	2.7%	13	14.6%	18	6.6%
計	378	※	164	※	542	※

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(9) ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人については、「誰もいない」、「母」が18.7%で最も多く、次いで、「父」が15.0%、「祖母」が13.9%の順であり、親族や福祉サービスの利用によってケアに協力してもらえるヤングケアラーもいる中で、「誰も協力してもらえない」との回答が約2割程度あった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「誰もいない」が21.7%で最も多く、次いで、「母」が19.0%、「祖母」が13.6%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「父」が20.2%で最も多く、次いで、「母」が18.0%、「祖母」「妹」がともに14.6%の順であった。

ケアに協力してくれる人【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=89)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
父	23	12.5%	18	20.2%	41	15.0%
母	35	19.0%	16	18.0%	51	18.7%
祖父	10	5.4%	9	10.1%	19	7.0%
祖母	25	13.6%	13	14.6%	38	13.9%
姉	15	8.2%	7	7.9%	22	8.1%
兄	16	8.7%	6	6.7%	22	8.1%
妹	18	9.8%	13	14.6%	31	11.4%
弟	18	9.8%	8	9.0%	26	9.5%
親戚	11	6.0%	7	7.9%	18	6.6%
近所の人	4	2.2%	5	5.6%	9	3.3%
知人	5	2.7%	2	2.2%	7	2.6%
ヘルパーや福祉サービスの人	18	9.8%	12	13.5%	30	11.0%
その他	6	3.3%	3	3.4%	9	3.3%
誰もいない	40	21.7%	11	12.4%	51	18.7%
未回答	29	15.8%	16	18.0%	45	16.5%
計	273 ※		146 ※		419 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

4 ケアの影響について

(1) 生活の影響について

生活の影響については、「学校を休みがちになっている」が 30.4%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 23.4%、「学校への遅刻が多い」が 14.7%、「自分の時間がとれない」11.7%、「友人と遊ぶことができない」10.6%の順となっており、学校生活への影響や体調面、自由な時間が取れないといった影響が出ているヤングケアラーもいる。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「学校を休みがちになっている」が 34.8%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 26.1%、「学校への遅刻が多い」が 17.9%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「学校を休みがちになっている」が 21.3%で最も多く、次いで、「ストレスを感じている」が 18.0%、「友人と遊ぶことができない」が 16.9%の順であった。

生活への影響について【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=89)		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
学校を休みがちになっている	64	34.8%	19	21.3%	83	30.4%
学校への遅刻が多い	33	17.9%	7	7.9%	40	14.7%
部活ができない	7	3.8%	6	6.7%	13	4.8%
勉強の時間が充分に取れない	17	9.2%	8	9.0%	25	9.2%
授業に集中できない	12	6.5%	2	2.2%	14	5.1%
成績が落ちた	5	2.7%	2	2.2%	7	2.6%
友人と遊ぶことができない	14	7.6%	15	16.9%	29	10.6%
周囲の人と会話や話題が合わない	7	3.8%	2	2.2%	9	3.3%
ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる	7	3.8%	5	5.6%	12	4.4%
ストレスを感じている	48	26.1%	16	18.0%	64	23.4%
睡眠不足	12	6.5%	2	2.2%	14	5.1%
しっかり食べていない	10	5.4%	6	6.7%	16	5.9%
体がだるい	4	2.2%	1	1.1%	5	1.8%
自分の時間が取れない	23	12.5%	9	10.1%	32	11.7%
進路についてしっかり考える余裕がない	5	2.7%	6	6.7%	11	4.0%
受験の準備ができていない	6	3.3%	1	1.1%	7	2.6%
アルバイトができない	2	1.1%	1	1.1%	3	1.1%
特に影響はない	11	6.0%	13	14.6%	24	8.8%
未回答	38	20.7%	27	30.3%	65	23.8%
	325 ※		148 ※		473 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

(2) ケアに関する悩みや不安、愚痴を話せる人

ケアに関する悩みや不安等を話せる人については、「担任の先生」が20.1%で最も多く、次いで、「いない」が16.8%、「母」「友人」がともに8.8%の順であった。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「担任の先生」が26.1%で最も多く、次いで、「いない」が19.6%、「友人」が6.5%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「母」が19.1%で最も多く、次いで、「友人」が13.5%、「兄弟姉妹」「いない」がともに11.2%の順であった。

不安や愚痴を話せる人【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会(N=184)		民生委員・児童委員等(N=89)		計	
父	3	1.6%	5	5.6%	8	2.9%
母	7	3.8%	17	19.1%	24	8.8%
兄弟姉妹	8	4.3%	10	11.2%	18	6.6%
祖父	2	1.1%	6	6.7%	8	2.9%
祖母	5	2.7%	9	10.1%	14	5.1%
親戚	5	2.7%	1	1.1%	6	2.2%
友人	12	6.5%	12	13.5%	24	8.8%
担任の先生	48	26.1%	7	7.9%	55	20.1%
保健室の先生	5	2.7%	2	2.2%	7	2.6%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	6	3.3%	6	6.7%	12	4.4%
福祉サービスの人(介護職員、ヘルパーなど)	7	3.8%	4	4.5%	11	4.0%
医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
看護師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
近所の人	3	1.6%	0	0.0%	3	1.1%
アルバイト先の人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
SNS上で出会った人	2	1.1%	1	1.1%	3	1.1%
電話相談のスタッフ	2	1.1%	0	0.0%	2	0.7%
その他	18	9.8%	7	7.9%	25	9.2%
いない	36	19.6%	10	11.2%	46	16.8%
未回答	65	35.3%	26	29.2%	91	33.3%
	234 ※		123 ※		357 ※	

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

5 求める支援について

(1) ヤングケアラーに必要と思われる支援について

必要と考える支援については、「電話や訪問による相談体制の整備」が 34.1%で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」が 19.8%、「社会的なヤングケアラー支援への理解」が 18.3%の順であった。このほか、「経済的な支援」、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」、「専門職等のヤングケアラー支援への理解」がそれぞれ 17.6%となっている。

- 要保護児童対策地域協議会を通じた回答では、「電話や訪問による相談体制の整備」が 40.2%で最も多く、次いで、「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」が 23.9%の順であった。
- 民生委員・児童委員等を通じた回答では、「相談体制の整備」が 21.3%で最も多く、次いで、「経済的支援」が 20.2%の順であった。

ヤングケアラーに必要と思われる支援【複数回答】

	要保護児童対策地域協議会 (N=184)		民生委員・児童委員等(N=89)		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	74	40.2%	19	21.3%	93	34.1%
ヤングケアラーに役立つ情報の提供	44	23.9%	10	11.2%	54	19.8%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	36	19.6%	12	13.5%	48	17.6%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	26	14.1%	7	7.9%	33	12.1%
勤務しやすい柔軟な働き方	7	3.8%	3	3.4%	10	3.7%
就労及び再就職への支援	5	2.7%	7	7.9%	12	4.4%
24時間対応の在宅サービスの提供	29	15.8%	10	11.2%	39	14.3%
入居施設等の生活の場の整備・充実	12	6.5%	3	3.4%	15	5.5%
ケアをしている相手の生活を変えないサービス	13	7.1%	7	7.9%	20	7.3%
社会的なヤングケアラー支援への理解	36	19.6%	14	15.7%	50	18.3%
専門職や行政職員のヤングケアラー支援への理解	32	17.4%	16	18.0%	48	17.6%
経済的支援	30	16.3%	18	20.2%	48	17.6%
ヤングケアラーの健康管理への支援	16	8.7%	12	13.5%	28	10.3%
その他	12	6.5%	5	5.6%	17	6.2%
未回答	28	15.2%	23	25.8%	51	18.7%
計	400	※	166	※	566	※

※複数回答のため回答数がヤングケアラーの数を上回っている。なお、割合はヤングケアラーの数を分母としている。

7 行政、関係機関等への要望（主なもの）

要保護児童対策地域協議会

- ケアラー緊急時のショートステイの対応をスムーズにできる様をお願いしたい。
- このケースは母の外出の際子守として学校を休むという状況であるので、在籍がない子の一時保育や一時預かりが増えれば母も外出しやすいと思う。
- ケアラー側が安心できる、親への在宅支援の充実
- ヤングケアラーに対する包括的で、持続可能な支援システムの構築
- 生活保護世帯のため、担当 CW が父自身に使えるサービスを親身になって提案、また手続きの支援を一緒に行ってもらいたい。結果、ヤングケアラーの負担軽減にもつながると思われる
- ヤングケアラーについて、県と市での対応に温度差があり、支援や指導に差がある。
- 社会的にヤングケアラーについての認知が低いため、学校等関係機関の中でも対応や危機感に温度差がある。
- 支援に入る定義が曖昧なため、対応マニュアルを作成してほしい。
- 怪我や痣のように見える形では発見されにくいのが、ケースに対応する市・関係機関に対し、専門的な助言・指導を求めたい。
- 同じ境遇等のこどもの居場所づくり、心のケア等への継続的人的支援

民生委員・児童委員等

- 学童保育等で休日に利用できるようにしてほしい。平日の退所時間を延長してほしい。＜地域包括＞
- 多感な年頃なので、親切心が仇になる傾向も。学校では正直な気持ちを話せるようなので、学校との連携で情報を共有して欲しい。＜民生委員＞
- 本人の自覚がないまま頑張っていることが多い。学校の担任が子供の背景を見ていく必要がある。＜民生委員＞
- ネグレクト等で幼い頃から家事や兄弟の世話をされていて、自分がヤングケアラーだという認識がない。ヤングケアラーだとわかっても、どこに相談に行けば良いのか分からないので、ヤングケアラーの認知度を上げる活動をお願いします。＜子ども食堂＞
- 家事支援など子どもの負担が減るサービスの実施、ひとり親に対する経済的支援の充実＜子ども食堂＞
- 家族の一員としての役割や責任を感じながら成長できるいい機会としながら、本人のみの負担となり抱え込まずにすむ体制を検討していただきたいです。＜障害＞
- ケアラー本人がのびのびと自分らしく自己肯定感を育めるような社会とのつながりと機会が必要。家庭の状況を教育の現場でもしっかりと把握し、福祉や親任せではなく教育の中でもできることがもっとあると思う。＜障害＞
- 自分の家族はできるだけ自分達で介護したいと思っている。行政や機関に頼るとお金がいる。状況を伝えたり話を聞いてもらうだけで安心する＜介護支援専門員＞

兵庫県 令和3年度 ケアラーに関する実態調査

1 調査の対象

この調査は、ケアラー（こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人）を対象としています。

＜こんな人がケアラーです（イメージ）＞



障害のあるこどもの子育て・
障害のある人の介護をしている



健康不安を抱えながら高齢
者が高齢者をケアしている



仕事と病気の子どもの看
病でほかにも何もできない



仕事を辞めてひとりで
親の介護をしている



遠くに住む高齢の親が心配
で頻繁に通っている



目を離せない家族の見守り
などのケアをしている



アルコール・薬物依存やひきこ
もりなどの家族をケアしている



障害や病気の家族の世話や
介護をいつも気にかけている

2 調査対象地域

あなたが民生委員・児童委員として受け持っておられる地域とします。

出典：一般社団法人 日本ケアラー連盟

3 調査の基準

令和3年4月1日（木）とします。

※基準日時点で把握されている情報でご記入ください。当アンケート調査への回答のための個別訪問や関係先等への照会は行っていただく必要がありません。

4 調査結果の取り扱い

- ・回収した調査票は厳重に保管し、集計後速やかに破棄します。
- ・集計はデータを統計的に処理して行いますので、個人が特定されることはありません。
- ・調査結果は今後のケアラー支援策に活かしてまいります。

（お問い合わせ先）

兵庫県 健康福祉部 社会福祉局 地域福祉課 地域福祉班

TEL：078-362-3181 FAX：078-362-4262

メール：chiikifukushi@pref.hyogo.lg.jp

○あなたの受け持ち地域に、現在、ケアラーに該当する方がいる場合、その方の状況について、わかる範囲で教えてください（回答は回答用紙に記入してください）。

ケアラーご本人について

問1 性別 ①男性 ②女性 ③無回答

問2 年齢

- ①10歳代(高校生以下は除く) ②20歳代 ③30歳代 ④40歳代 ⑤50歳代 ⑥60歳代
⑦70歳代 ⑧80歳以上

問3 同居家族 () 人

問4 就労等の状況

- ①正規雇用 ②非正規雇用 ③自営業 ④家族従業者 ⑤主婦(夫) ⑥無職
⑦大学生、短大生、専門学校生等 ⑧その他()

ケアラーがケアをしている相手の状況について

問5 ケアをしている相手(例:実母、義父など) ()

問6 性別 ①男性 ②女性 ③無回答

問7 年齢

- ①10歳未満 ②10歳代 ③20歳代 ④30歳代 ⑤40歳代 ⑥50歳代 ⑦60歳代
⑧70歳代 ⑨80歳以上

問8 生活場所

- ①在宅(同居) ②在宅(別居) ③施設入居中 ④病院に入院中
⑤その他()

問9 健康状態(複数回答可)

- ①病気 ②難病 ③身体障害 ④知的障害 ⑤精神障害 ⑥発達障害
⑦医療的ケアが必要な障害児 ⑧高次脳機能障害 ⑨依存症 ⑩認知症
⑪高齢・老化による心身機能の低下 ⑫その他()

問10 行っているケアの内容(複数回答可、そのうち最も負担を感じると思われる項目の1つの左横に☆をつけてください)

- ①買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除等の家事
②買い物同行などの外出の援助
③通院の援助
④ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理

- ⑤屋内の移動、入力、排泄、着替え、食事などの身体的な介護
- ⑥本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいるなどの見守り
- ⑦徘徊や昼夜逆転などの認知症への行動への対応やその防止のための見守り
- ⑧服薬の声かけや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助け
- ⑨経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケア
- ⑩役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続
- ⑪その他（)

問11 ケアの相手方が利用している（したことがある）サービス（複数回答可）

- ①通所サービス ②訪問サービス ③宿泊サービス ④移送支援サービス
- ⑤移動支援 ⑥その他（) ⑦利用していない

問12 ケアをしている頻度

- ①毎日 ②週4～6日 ③週2～3日 ④週1日 ⑤月に数日 ⑥その他（)

問13 1日にケアをしている時間

- ①1時間未満 ②1時間以上2時間未満 ③2時間以上4時間未満
- ④4時間以上6時間未満 ⑤6時間以上8時間未満 ⑥8時間以上

問14 ケアをしている期間

- ①20年以上 ②10年以上20年未満 ③5年以上10年未満 ④3年以上5年未満
- ⑤1年以上3年未満 ⑥1年未満

ケアラー本人がケアによって受けている影響

問15 健康状態（複数回答可）

- ①身体的不調がある ②精神的不調がある ③睡眠不足 ④通院中
- ⑤持病があるが通院できない ⑥健康診断に行く時間がない ⑦休養がとれない
- ⑧運動不足 ⑨その他（)

問16 ケアによる就労・就学への影響

ケアラーが現在就労・就学している（または就労・就学していた）場合、次にあてはまるものがあればお答えください。（複数回答可）

（就労関係）

- ①ケアのために退職した（→問18にもお答えください）
- ②ケアのために勤務時間を減らした ③ケアのために転職した
- ④ケアのために就労経験がない ⑤就労状況に変化はない

（就学関係）

- ⑥ケアのために進学をあきらめた
- ⑦学校を休みがちになっている ⑧学校への遅刻が多い ⑨部活ができない
- ⑩勉強の時間が充分に取れない ⑪授業に集中できない ⑫成績が落ちた

- ⑬友人と遊ぶことができない ⑭進路についてしっかり考える余裕がない
 ⑮ケアのために退学した（→問18にもお答えください）
 （その他）
 ⑯周囲の人と会話や話題が合わない ⑰ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる ⑱ストレスを感じている
 ⑲睡眠不足 ⑳しっかり食べていない ㉑体がだるい ㉒自分の時間が取れない

問 17 就労を続けられている理由（複数回答可）※就労を続けている方について記載

- ①各種サービスの利用 ②家族のサポート ③勤務時間の短縮
 ④配置転換・勤務地変更 ⑤転職 ⑥介護休暇の取得 ⑦相談先の紹介
 ⑧その他（ ）

問 18 ケアのために退職・退学した理由（複数回答可）※退職・退学した方について記載

- ①身体的疲労 ②精神的疲労 ③代わりにケアを担う人がいない
 ④サービスが利用できなくなった ⑤業務が多忙でケアの時間がとれない
 ⑥ケアと両立できる職場環境ではなかった ⑦退職を勧められた
 ⑧その他（ ）

ケアに関する相談（複数回答可）

問 19 ケアラー以外で、ケアに協力してくれる人（複数回答可）

- ①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤兄弟・姉妹 ⑥親戚 ⑦近所の人や知人
 ⑧医療従事者やサービス事業所の人 ⑨その他（ ）
 ⑩誰もいない

問 20 ケアラーが信頼して相談している窓口や機関（複数回答可）

- ①ケアラーの家族 ②家族会 ③地域包括支援センター ④ケアマネジャー
 ⑤障害者（児）相談支援事業所 ⑥子育て支援機関 ⑦民生委員・児童委員
 ⑧医療機関 ⑨サービス事業所 ⑩電話相談窓口
 ⑪その他（ ）

問 21 ケアラー本人の生活や人生に関する悩み（複数回答可）

- ①心身の健康 ②経済的な問題 ③仕事に就けない ④職場の人間関係
 ⑤仕事とケアと生活とのバランス ⑥学校にいけない
 ⑦ケアをしている相手との関係 ⑧家族関係 ⑨近隣との関係
 ⑩医療機関やサービス事業所との関係 ⑪行政との関係
 ⑫自分の自由な時間が取れない ⑬ケアしている相手へのサービスの質・量の不足
 ⑭ケアラーの緊急時、ケアをしている相手へのサービス
 ⑮将来への見通しが持てない ⑯ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる
 ⑰その他（ ） ⑱特にない

問 22 もしもの場合、ケアラーに代わってケアを担ってくれる人

- ①いる ②頼めばいる ③頼めばいるが頼みにくい ④いない

求める支援

問 23 ケアラー本人に必要と思われる支援（複数回答可、そのうち最も必要と思う項目 1 つの左横に☆をつけてください）

- ①電話や訪問による相談体制の整備 ②ケアラーに役立つ情報の提供
③気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保 ④気軽に情報交換できる環境の紹介・提供
⑤勤務しやすい柔軟な働き方 ⑥就労及び再就職への支援
⑦24 時間対応の在宅サービスの提供 ⑧入居施設等の生活の場の整備・充実
⑨災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス
⑩ケアラーがいなくなった後、ケアの相手方の生活の継続
⑪社会的なケアラー支援への理解 ⑫専門職や行政職員のケアラー支援への理解
⑬経済的支援 ⑭ケアラーの健康管理への支援
⑮その他（ ）

その他

問 24 新型コロナウイルス感染症対策の前後でケアの状況の変化

- ①負担が増えた ②負担が減った ③変わらない

問 25 ケアラーに関する行政や関係機関等への要望を自由にお書きください。

[]

問 26 新型コロナウイルスの影響で、ケアに関して特に困ったことがありましたら、お書きください。

[]

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答用紙：ケアラー

※ケアラーお一人につき、1枚の回答用紙をお使いください。

※該当する番号や数字、内容を記載してください。「その他」を選んだ場合は、その番号と内容を回答欄に記載してください。

※わからない（回答できない）項目は、空欄のままご提出ください。

市町名 { } 区名 { }
(神戸市のみ)

ケアラーご本人について									
問1		問2		問3		問4			
ケアラーがケアをしている相手の状況について									
問5		問6		問7		問8			
問9				問10					
問11				問12		問13		問14	
ケアラー本人がケアによって受けている影響									
問15				問16					
問17				問18					
ケアに関する相談									
問19				問20					
問21				問22					
求める支援									
問23									
新型コロナウイルス感染症対策の前後でケアの状況の変化									
問24									
行政や関係機関等への要望									
問25									
新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと									
問26									

兵庫県 令和3年度 ヤングケアラーに関する実態調査

1 調査の対象

この調査は、ヤングケアラー（こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする18歳未満の人）を対象としています。

<こんな人がヤングケアラーです（イメージ）>



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

出典：一般社団法人 日本ケアラー連盟

2 調査対象地域

あなたが民生委員・児童委員として受け持つておられる地域とします。

3 調査の基準

令和3年4月1日（木）とします。

※基準日時時点で把握されている情報でご記入ください。当アンケート調査への回答のために個別訪問や関係先等への照会を行っていただく必要はありません。

4 調査結果の取り扱い

- ・回収した調査票は厳重に保管し、集計後速やかに破棄します。
- ・集計はデータを統計的に処理して行いますので、個人が特定されることはありません。
- ・調査結果は今後のケアラー支援策に生かしてまいります。

（お問い合わせ先）

兵庫県 健康福祉部 社会福祉局 地域福祉課 地域福祉班

TEL：078-362-3181 FAX：078-362-4262

メール：chiikifukushi@pref.hyogo.lg.jp

○あなたの受け持ち地域に、現在、ヤングケアラーに該当する子どもがいる場合、その方の状況について、わかる範囲で教えてください(回答は回答用紙に記入してください)。

ヤングケアラーご本人について

問1 性別 ①男性 ②女性

問2 就学の状況

①小学生 ②中学生 ③高校生

問3 年齢

() 歳

問4 表紙の「こんな人がヤングケアラーです」のイラストを見て、本人は「ヤングケアラーである」との認識を持っていますか。

①持っている ②持っていない

ヤングケアラーがケアをしている相手の状況について

問5 ヤングケアラーとの関係(例:実母、義父など) ()

問6 性別 ①男性 ②女性

問7 年齢

①10歳未満 ②10歳代 ③20歳代 ④30歳代 ⑤40歳代 ⑥50歳代 ⑦60歳代
⑧70歳代 ⑨80歳以上

問8 生活場所

①在宅(同居) ②在宅(別居) ③施設入居中 ④病院に入院中
⑤その他()

問9 ケアをしている相手の状況(複数回答可)

①病気 ②難病 ③身体障害 ④知的障害 ⑤精神障害 ⑥発達障害
⑦医療的ケアが必要な障害児 ⑧高次脳機能障害 ⑨依存症 ⑩認知症
⑪高齢・老化による心身機能の低下 ⑫幼い(未就学、小学生)
⑬その他()

問10 行っているケアの内容(複数回答可、そのうち最も負担を感じると思われる項目1つの左横に☆をつけてください)

①家の中の家事(食事の用意、後片付け、洗濯、掃除など)をしている。
②家庭管理(買い物、家の修理仕事、重いものを運ぶなど)をしている。
③金銭管理(請求書の支払い、銀行でのお金の出し入れなど)をしている。

- ④家計支援（家族のためにバイトで働くなど）をしている。
- ⑤言語やコミュニケーションのサポート（家族のために通訳をする、書類や手紙などを説明して対応するなど）をしている。
- ⑥医療関連の手助け（薬を飲んだか確かめるなど）をしている。
- ⑦通院の介助をしている。
- ⑧入院や入所をしている家族に会いに行く。
- ⑨医療的ケア（経管栄養の管理や痰の吸引など）をしている。
- ⑩身の周りのケア（衣服の脱着の介助、入浴・トイレの介助、移動介助など）をしている。
- ⑪感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかける、見守る、その人を散歩などで外に連れ出したりする）をしている。
- ⑫きょうだいのケア（自分一人で、あるいは親と一緒に、きょうだいの世話をする）をしている。
- ⑬その他（具体的に： _____）

問 11 ケアの相手方が利用しているサービス（複数回答可）

- ①通所サービス ②訪問サービス ③宿泊サービス ④移送支援サービス
- ⑤移動支援 ⑥その他（ _____ ） ⑦利用していない

問 12 ケアをしている頻度

- ①毎日 ②週 4～6 日 ③週 2～3 日 ④週 1 日 ⑤月に数日 ⑥その他（ _____ ）

問 13 1 日にケアをしている時間

- ①1 時間未満 ②1 時間以上 2 時間未満 ③2 時間以上 4 時間未満
- ④4 時間以上 6 時間未満 ⑤6 時間以上 8 時間未満 ⑥8 時間以上

問 14 ケアをしている期間

- ①小学校入学前から ②小学校 1～3 年生頃 ③小学校 4～6 年生頃
- ④中学生のとき ⑤高校生になってから

問 15 ケアをしている理由（複数回答可）

- ①親の病気や障害、精神疾患、入院のため ②ひとり親家庭であるため
- ③親が仕事で、忙しいため ④年下のきょうだいがいるため
- ⑤祖父母の病気や加齢、入院のため ⑥きょうだいに障害があるため
- ⑦親が家事をしない状況のため ⑧親にとって日本語が第一言語でないため
- ⑨福祉サービスを利用していないため ⑩他にケアをする人がいなかったため
- ⑪ケアをしたいとケアラー自身が思ったため
- ⑫その他（具体的に： _____）

問16 ヤングケアラー以外で、ケアに協力してくれる人（複数回答可）

- ①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤姉 ⑥兄 ⑦妹 ⑧弟 ⑨親戚 ⑩近所の人 ⑪知人 ⑫ヘルパーや福祉サービスの人 ⑬その他（具体的に：
）
⑭誰もいない（本人だけ）

ヤングケアラー本人がケアによって受けている影響

問17 ケアをしているために、ヤングケアラーの生活にどんな影響がでていますか（複数回答可）。

- ①学校を休みがちになっている ②学校への遅刻が多い ③部活ができない
④勉強の時間が充分に取れない ⑤授業に集中できない ⑥成績が落ちた
⑦友人と遊ぶことができない ⑧周囲の人と会話や話題が合わない
⑨ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる ⑩ストレスを感じている
⑪睡眠不足 ⑫しっかり食べていない ⑬体がだるい ⑭自分の時間が取れない
⑮進路についてしっかり考える余裕がない ⑯受験の準備ができていない
⑰アルバイトができない ⑱特に影響はない

問18 ケアに関する悩みや不満、愚痴を話せる人（複数回答可）

- ①父 ②母 ③兄弟姉妹 ④祖父 ⑤祖母 ⑥親戚 ⑦友人 ⑧担任の先生
⑨保健室の先生 ⑩スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
⑪福祉サービスの人（介護職員、ヘルパーなど） ⑫医師 ⑬看護師
⑭近所の人 ⑮アルバイト先の人 ⑯SNS上で出会った人
⑰電話相談のスタッフ
⑱その他（具体的に：
）
⑲いない

求める支援

問19 ヤングケアラー本人に必要と思われる支援（複数回答可、そのうち最も必要と思う項目1つの左横に☆をつけてください）

- ①電話や訪問による相談体制の整備 ②ヤングケアラーに役立つ情報の提供
③気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保 ④気軽に情報交換できる環境の紹介・提供
⑤勤務しやすい柔軟な働き方 ⑥就労及び再就職への支援
⑦24時間対応の在宅サービスの提供 ⑧入居施設等の生活の場の整備・充実
⑨災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス
⑩社会的なヤングケアラー支援への理解
⑪専門職や行政職員のヤングケアラー支援への理解
⑫経済的支援 ⑬ヤングケアラーの健康管理への支援
⑭その他（
）

その他

問 20 新型コロナウイルス感染症対策の前後でケアの状況の変化

- ①負担が増えた ②負担が減った ③変わらない

問 21 ヤングケアラーに関する行政や関係機関等への要望を自由にお書きください。

[]

問 22 新型コロナウイルスの影響で、ケアに関して特に困ったことがありましたら、お書きください。

[]

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答用紙：ヤングケアラー

※ヤングケアラーお一人につき、1枚の回答用紙をお使いください。

※該当する番号や数字、内容を記載してください。「その他」を選んだ場合は、その番号と内容を回答欄に記載してください。

※わからない（回答できない）項目は、空欄のままご提出ください。

市町名 { } 区名 { }
(神戸市のみ)

ヤングケアラーご本人について									
問1		問2		問3		問4			
ヤングケアラーがケアをしている相手の状況について									
問5				問6			問7		
問8				問9					
問10								問11	
問12			問13			問14			
問15							問16		
ヤングケアラー本人がケアによって受けている影響									
問17									
ケアに関する悩みや不満、愚痴を話せる人									
問18									
ヤングケアラー本人に必要と思われる支援									
問19									
新型コロナウイルス感染症対策の前後でケアの状況の変化									
問20									
行政や関係機関等への要望									
問21									
新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと									
問22									